

8-1 No. 87-2
GAa1/1

8-1-49-2

—— 第12回婦人週間 ——

第8回全国婦人会議

移動会議のしおり

佐賀婦人少年室

労働省 婦人少年部

女性と仕事の未来館



00941808

は し が き

才八回全国婦人会議の移動會議は、四月十四日に、會議員が四班にわかれ、東京・神奈川・埼玉・千葉の各地で、事業場・施設・集団住宅などを視察するとともに、地元の婦人と懇談を行ない、これらを全国婦人会議の話し合いに反映させることによつて、さらに會議の内容を豊かにすることを目的としたものです。こゝに各班の視察順路及び事業場・施設等の概要をまとめ、参考に供します。

昭和三十五年四月

目

次

一、各班コースと地図

東京班

神奈川班

埼玉班

千葉班

二、東京班参考資料

三鷹東保育所

株式会社横河電機製作所

協同乳業株式会社東京工場

日本住宅公団武蔵野緑町団地

生活改善技術館

三、神奈川班参考資料

日本石油化学株式会社川崎工場

旭ダウ株式会社川崎工場

神奈川県勤労婦人会館

三菱日本重工業横浜造船所

軽井沢住宅

四、埼玉班参考資料

川口内燃機製造株式会社

美園村大門下生活改善クラブ

盆 菰 村

片倉ハドソン靴下株式会社大宮工場

五、千葉班参考資料

東京電力株式会社千葉火力発電所

登戸生活協同組合

農林省農業技術研究所家畜部

畜産化学部

一 一七 一七 一六 一六 一五 一五 一二 九 五 一

一八 一八 一九 二〇 二一 二一 二二 二二 二二 二三

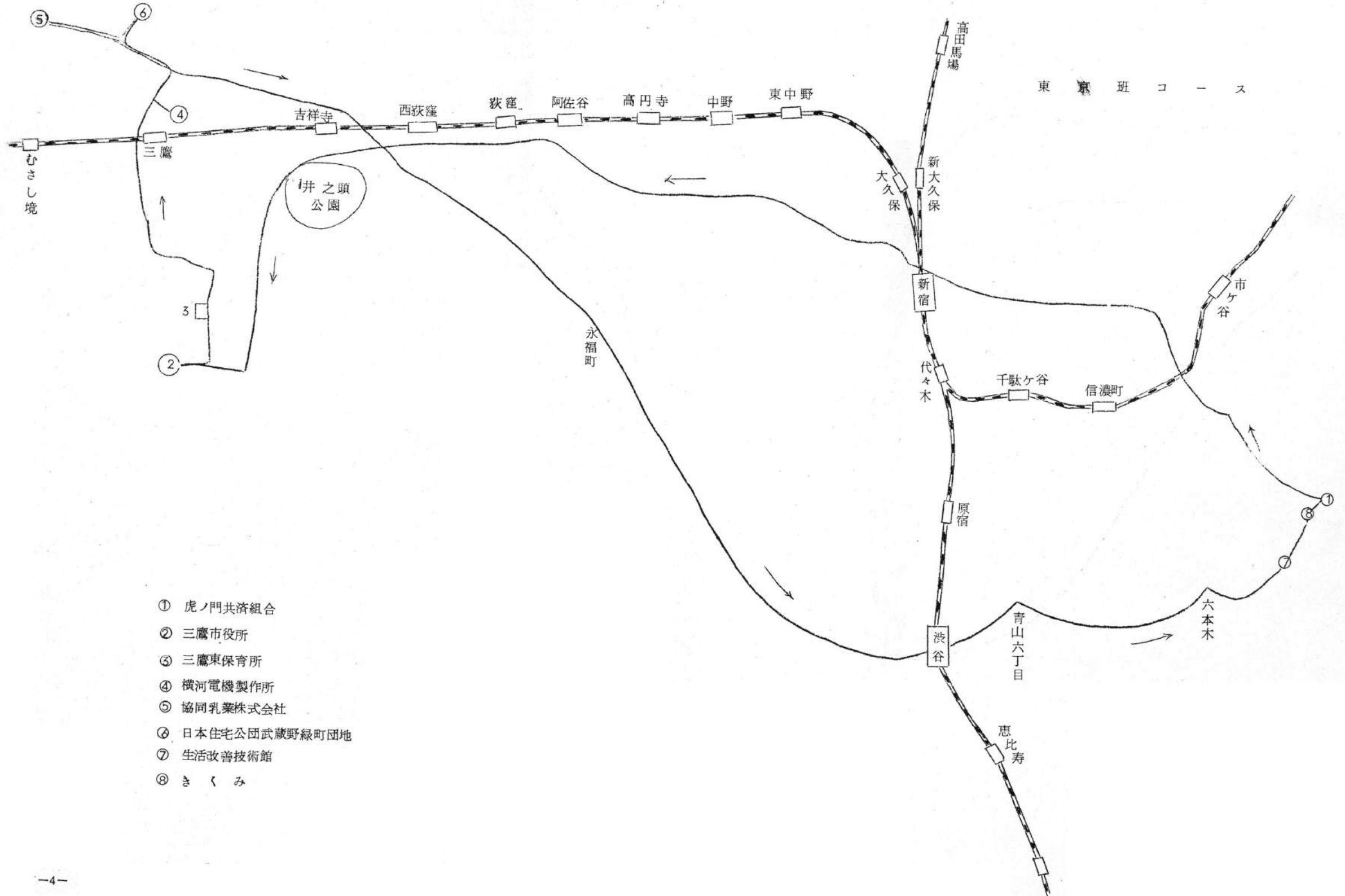
東京班コース

視 察 地	所要時間	予 定 時 刻	備 考
バス 虎ノ門共済会館より三鷹市役所へ	七〇分	八・三〇～九・四〇	(経路) 共済会館～四谷～新宿～中野～吉祥寺～井之頭自然公園～三鷹市役所
三鷹市役所 三鷹市長より三鷹保育所の概況説明	一五分	九・四〇～九・五五	
バス 三鷹市役所より三鷹東保育所へ 三鷹東保育所視察 担当者より概況説明及び見字	五分	九・五五～一〇・〇〇	
バス 三鷹東保育所より横河電機へ	三〇分	一〇・〇〇～一〇・三〇	(連絡先) 三鷹市下連雀五八一 三鷹東保育所 主任 浅田 美智子氏 電話 022) ③八五九六 (経路) 三鷹東保育所～三鷹駅～横河電機

視 察 地	所要時間	予 定 時 刻	備 考
横河電機製作所視察 担当者及び映画による概 況説明の後工場視察	六〇分	一〇・四〇～一一・四〇	(連絡先) 武蔵野市吉祥寺三千番地 株式会社 横河電機製作所 総務部人事課 長 江 寿恵子 氏 電話 武蔵野(022)三七〇一
バス 横河電機より協同乳業へ 協同乳業株式会社視察 担当者より概況説明及び 視察	一〇分 三〇分	一一・四〇～一一・五〇 一一・五〇～一二・二〇	(連絡先) 北多摩郡保谷町上保谷新田二五八 協同乳業株式会社東京工場 総務課長 斉 藤 興 氏 電話 武蔵野(022)三一一一～九
屋 食 バス 協同乳業より緑町団地へ 日本住宅公団武蔵野緑町 団地	三〇分 一〇分 一一〇分	一二・二〇～一二・五〇 一二・五〇～一三・〇〇 一三・〇〇～一四・五〇	(連絡先) 武蔵野緑町団地管理班主任 遠 藤 正 男 氏
団地見学及び主婦との懇 談会 バス	七〇分	一四・五〇～一六・〇〇	(経 路) 電話(022)二七二一

緑町団地より生活改善技 術館へ	生活改善技術館視察 担当官より機況説明及び 見学	バス	生活改善技術館よりきく みへ	夕食及び懇談会	バス	きくみより共済会館へ	緑町団地へ吉祥寺へ永福町へ渋谷へ六本木へ生活改善技 術館
							(連絡先)
六〇分	一六・〇〇〜一七・〇〇	一〇分	一七・〇〇〜一七・一〇	一〇〇分	一七・一〇〜一八・五〇	一〇分	港区麻布市兵衛町一ノ一三 佐藤チャウ氏
							電話(481) 九〇〇・九三〇
							於きくみ 会議員及び関係職員

東京班コース



神奈川班コース

視察地	所要時間	予定時刻	備考
バス 虎ノ門共済会館より川崎市夜光町へ 日本石油化学K・K川崎工場 工場概況説明、記録映画上映、視察	四〇分 九〇分	八・三〇～九・一〇 九・一〇～一〇・四〇	虎ノ門～才二国道～川崎～日本石油化学K・K川崎工場 (連絡先) 川崎市大師河原夜光町八五四三の三 日本石油化学K・K 総務課 田中一郎氏 電話 川崎(3)六三二一 最寄駅 川崎駅より市営バス(阜頭行)にて二十分 夜 光町下車又は川崎駅より大師線乗換十二分終点塩浜駅下車
バス 日本石油化学より旭ダウへ 旭ダウK・K川崎工場 工場概況説明と視察	五分 六〇分	一〇・四〇～一〇・四五 一〇・四五～一一・四五	(連絡先) 川崎市大師河原夜光町 旭ダウK・K川崎工場事務課長 神森忠義氏 電話 川崎(3)〇二六一
バス 旭ダウ川崎工場より県勤労婦人会館へ 神奈川県勤労婦人会館	三〇分 七五分	一一・四五～一二・一五 一二・一五～三・三〇	(連絡先) 川崎市南幸町三の一五七 神奈川県勤労婦人会館長 大村ヨシエ電 川崎(2)五六四 最寄駅 川崎駅より南武線尻手駅下車徒歩五分

視 察 地	所要時間	予 定 時 刻	備 考
昼 食 館長より会館の概況説明 バス 勤労婦人会館より三菱日本重工K・K横浜造船所 軽井沢社宅へ 勤労者の主婦との懇談会	三〇分 一〇〇分	一三・三〇～一四・〇〇 一四・〇〇～一五・四〇	才二国道→反町→青木橋→横浜駅裏口→浅間下→社宅 於 三菱日本重工K・K横浜造船所軽井沢社宅 横浜市西区北軽井沢五〇 (連絡先) 軽井沢住宅管理事務所 鈴木 管理 人 電話 横浜(44)五八八四 又は三菱日本重工K・K横浜造船所 厚生係長 中 村 隆 三 郎 氏 電話 横浜(2)二九三一 最寄駅 横浜駅より市電浅間下車 懇談会(今年度労働者家族生活技術指導モデル地区) 参加者 主 婦 一六名 会 議 員 一五名 計 三一名 司 会 神奈川婦人少年室長 北軽井沢→桜木町→シルクセンター
バス 軽井沢社宅よりシルクセンターへ	一一〇分	一五・四〇～一六・〇〇	

シルクセンター屋内見学 屋上より横浜港展望	二〇分	一六・〇〇～一六・二〇	シルクセンター～山下公園～外人墓地～南京町へ
バス シルクセンターより外人 墓地側を経て南京町へ	二〇分	一六・二〇～一六・四〇	
夕食 バス 南京町～虎ノ門へ	六〇分 八〇分	一六・四〇～一七・四〇 一七・四〇～一九・〇〇	於 南京町 南京町～桜木町～才一国道

都

藥

摩多

④

橫濱

下
公
園

埼玉班コース

視 察 地	所要時間	予 定 時 刻	備 考
バス 虎ノ門より川口市へ 川口内燃機鑄造K・K視察 社長より概況説明	六〇分 九〇分	八・三〇～九・三〇 九・三〇～一・〇〇	赤羽～荒川大橋～鳩が谷街道經由 川口市朝日町一ノ一八五 電話 川口(〇八二)三三〇五
バス 川口内燃機より美園村大 門へ	三〇分	一一・〇〇～一一・三〇	(連絡先) 労務課長 安 達 健 三 氏 最寄停留所 赤羽駅東口より鳩が谷行バス ラジウム温泉下草 三分 鳩が谷經由
昼 食 野田サギ山についての映 画(三〇分) 美園村大門下生活改善クラ ブ員との懇談会	六〇分 九〇分	一一・三〇～一二・三〇 一二・三〇～一四・〇〇	於 美園村大門南集会所 (連絡先) 川口市根岸三五六二(電場三一九) 川口地区農業改良普及所 生活改良普及員 佐々木 達 子 氏

視 察 地	所要時間	予 定 時 刻	備 考
バス 大門より大宮市へ 盆裁村見学	四〇分 二〇分	一四・〇〇～一四・四〇 一四・四〇～一五・〇〇	大宮駅東口下車 約一軒バス七分 東武大宮公園駅下車徒歩三分 (連絡先) 大宮市盆裁町一四八八 九霞園 村 田 久 造 氏 電話 大宮 四二三
バス 盆裁村より片倉ハドソン へ 片倉ハドソン靴下K・K視 察 総務課長より概況説明	三〇分 六〇分	一五・〇〇～一五・三〇 一五・三〇～一六・三〇	大宮市吉敷町四ノ二三九 電話 大宮 二八〇一～二八〇四 (連絡先) 総務課長代理 小 川 渉 氏
夕 食 バス 片倉ハドソンより虎ノ門 共済会館へ	六〇分 九〇分	一六・三〇～一七・三〇 一七・三〇～一八・〇〇	於 片倉ハドソン靴下K・K 新国道より戸田橋経由

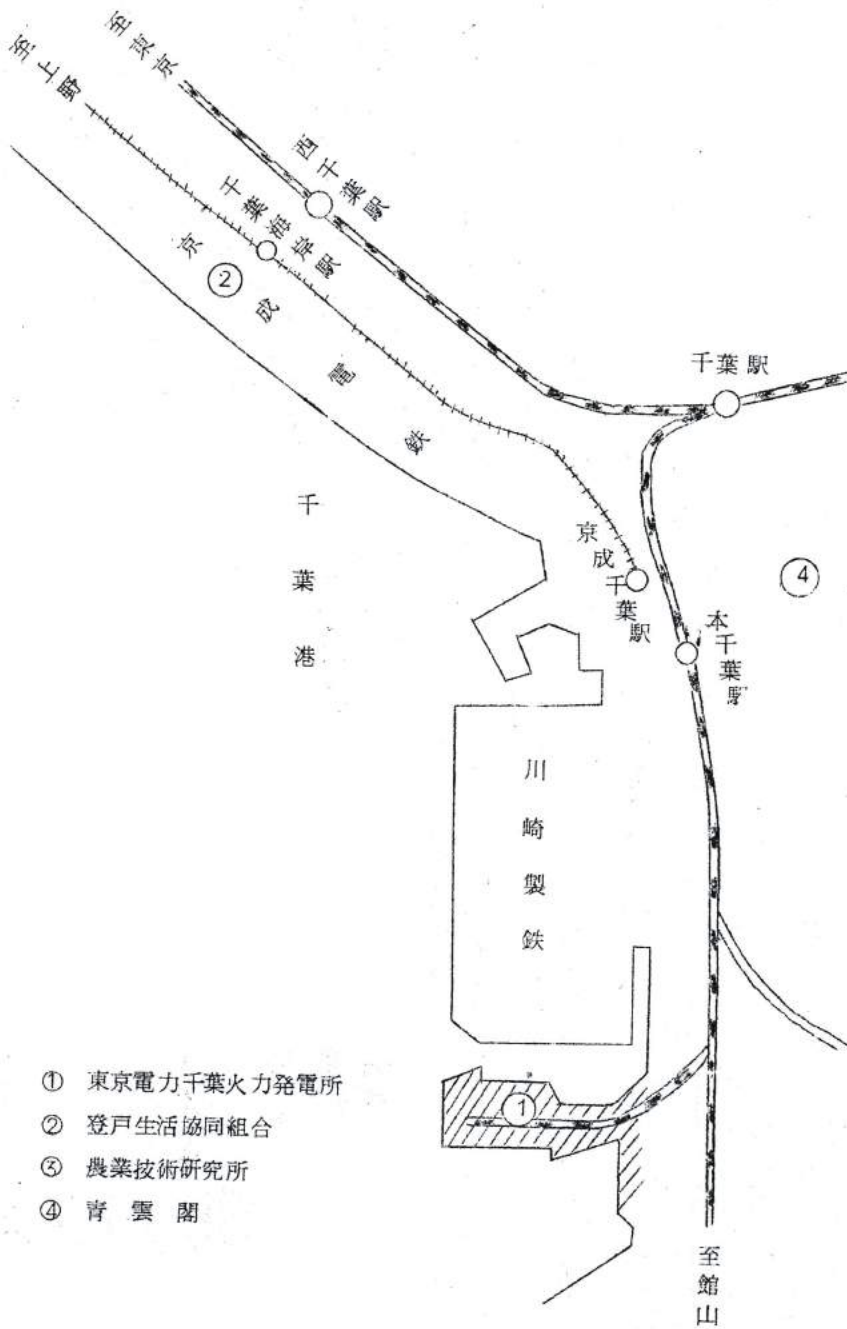
-

千葉班 コース

視察地	所要時間	予定時刻	備考
バス 虎ノ門より千葉市へ 東京電力千葉火力発電所視察 工場概況説明、記録映画 画及び工場視察	一〇〇分 一一〇分	八・三〇～一〇・一〇 一〇・一〇～一二・〇〇	小松川橋より市川橋経由 (連絡先) 千葉市蘇我町二ノ一三六七 東京電力千葉火力発電所 労務課 木内 務氏 電話 千葉 (2)五一二一
バス 千葉火力発電所より登戸 生協へ	二〇分	一二・〇〇～一二・二〇	
昼食 登戸生活協同組合員との懇談会	四〇分 九〇分	一二・二〇～一三・〇〇 一三・〇〇～一四・三〇	於 登戸生活協同組合 (連絡先) 千葉市登戸町五丁目 登戸生活協同組合 専務理事 樋口 菊枝氏 電話 千葉 (2)二三六五
バス 登戸生協より農業技術研究所へ	二〇分	一四・三〇～一四・五〇	

農業技術研究所視察 研究所概況説明及び視察 (家畜部 畜産化学部)	九〇分	一四・五〇～一六・二〇	(連絡先) 千葉市青葉町農業技術研究所 総務部千葉分室 大 島 平八郎 氏 電話 千葉(2) 〇一九一
バス 農業技術研究所より青雲 閣へ	一五分	一六・二〇～一六・三五	於 青雲閣(公立学校共済組合施設) (連絡先) 千葉市本町 青雲閣 電話 千葉(2) 〇五五六
夕 食	四五分	一六・三五～一七・二〇	市川橋～小松川橋経由
バス 青雲閣より虎ノ門共済会 館へ	一〇〇分	一七・二〇～一九・〇〇	

千葉班コース



◎三鷹東保育所

三鷹東保育所は市立の社会福祉施設として昭和三十四年七月一日に開所され、満三才未満の乳幼児をあづかる公立の乳児保育所として、全国でも数少ないものの一つとして注目されている。三鷹市には、既に昭和三十一年に建てられた乳児保育所があるが、利用者が多数のため収容しきれず、二番目の施設としてこの東保育所が設立された。

定員は七十二名（一才未満三〇名、三才未満四二名）、入所資格は、三鷹市在住者の生後二カ月から満三才までの乳幼児で、母親が働いていたり、病氣だつたりして十分に育てることができない場合となつており、共かせぎの婦人に喜ばれている。

保育時間は、朝八時から午後四時までで、現在五二名の乳幼児が、その年令にしたがつて三つの部屋に分けられ、七名の保母と栄養士、保健婦各一名からゆきとどいた保育をうけている。

◎株式会社横河電機製作所

横河電機製作所は、大正四年九月創業以来、四〇余年にわたり電気計測器の研究、製作を専門に行つてきたわが国随一のメーカーで、資本金十一億円、武蔵野の一角に約三四〇〇坪の敷地を有し、工作部門、製造部門、研究所にわかれ、高度の技術と精密な作業、事務の能率化、合理化を誇る近代的な工場である。

製品は電気計器、電気測定器、工業計器に大別され、非常に多種にわたるが、これらは広く学校研究所をはじめ放送、通信、鉄道、船舶や電力、瓦斯、水道、紡績、化繊、人絹、パルプ、石油、鉱業、肥料、薬品、ゴム、フィルム、食品など全産業部門に使用され、オートメーションの原動力ともなつている。

従業員は一九五〇名、うち女子は三〇〇名で、主として電気計測器の部品作り、巻線調整、スケール書き、部品検査、その他事務関係に従事している。

従業員のための各種の福利厚生施設も完備し、敷地内には広大な綜合運動場をはじめ、卓球、弓道、柔道、生花、茶の

湯などを楽しむことのできるクラブや食堂や談話室、シャワー浴室などの設備されたロッヂ等がある。

◎協同乳業株式会社東京工場

協同乳業東京工場は、名糖牛乳、名糖バター、チーズ、アイスクリームなどの各種名糖乳製品を製造している工場で、敷地一万坪、建坪四千坪、大冷蔵庫を中心に製品別に放射状に伸びた各工場にはデンマーク、スエーデン、スイス、ドイツ、イギリスなどの酪農先進国から輸入された最新式酪農機械が配置され、高度に機械化された近代工場である。

従業員は約六〇〇名、うち女子は一〇〇名で、アイスクリームの包装、牛乳びん詰作業の補助及び事務関係に従事している。

◎日本住宅公団武蔵野緑町団地

日本住宅公団により昭和三十三年に建設された住宅で、武蔵野の緑にかこまれた二四、二〇〇坪の敷地に、鉄筋コンクリート造、四階建と五階建アパート三二棟が建っている。戸数は全部で一〇一九戸、単身者用一九〇戸、夫婦又は親子等の二人世帯のための小世帯用一三〇戸、一般世帯用の六九九戸に分れている。全部賃貸し住宅で、家賃は単身者用三、四五〇〜三、六〇〇円、小世帯用四、七〇〇〜四、九〇〇円、一般世帯用

五、七五〇円等となっている。このほかの施設としては管理事務所、集会所、児童遊園地がある。

◎生活改善技術館

農林省では、農村生活の改善を目的として、全国に生活改善普及員及びその技術的援助者として生活改善専門技術員を配置して生活改善の指導を行つているが、この生活改善技術館は、これら農村生活改善指導の本拠として設立されたもので、鉄筋コンクリート二階建、延坪数三二二坪、各種生活用設備器具及び実験実習設備を有し、総工費三八〇〇万円、昭和三十三年九月に竣功した。

この生活改善技術館には、衣・食・住・家庭管理の実験実習室、資料・実験展示室、会議室のほかに生活総合実習のための宿泊室（三四人分）と食堂等があり、主として生活改善普及員や生活改善専門技術員等の生活改善指導者の研究・訓練を行う場として使用されている。

◎ 日本石油化学株式会社川崎の工場

日本石油化学株式会社塩浜工場は日本石油精製株式会社横浜製油所の近代化拡張工事が実施されるに際して同所で発生する接解分解ガスの有効利用のイソプロピルアルコール及びアセトンを製造するために才一次計画として昭和三十二年五月完成した。

その後川崎地区に工場建設を計画中の化学会社数社より石油系原料の供給を受けたい旨の申出により才二次計画としてエチレン、ブタジエン等の石油化学原料を供給するために昭和三十二年十一月千鳥工場を建設完成した。ニチレンは隣接の旭ダウ川崎工場等へ供給している。

更に才二次計画製品の有効利用を図るため目下米国オロニイト化学会社と技術導入の諸条件について折衝中である。

前述のとおり日本石油化学株式会社川崎工場は塩浜工場と千鳥工場とに分れ、塩浜工場は総面積約五〇、〇〇〇坪、千鳥工場は四〇、〇〇〇坪の敷地に建設されている。

両工場は電力線、水蒸気線、主要原料線などをもつて連絡さ

れ、同一工場としての機能を有し、また原料供給源である日本石油精製株式会社横浜製油所とは産業道路に沿つて約一・五kmにわたつて布設された送油管ならびにプロパンプロピレン留分受入用タンクローリーをもつて有機的に連絡されている。

従業員は四〇〇名（うち女子二四名）にすぎない点もこの近代工場の大きな特徴といえる。

◎ 旭ダウ株式会社川崎工場

旭ダウ株式会社川崎工場はスチロール樹脂（合成樹脂）国産の必需品から昭和三十二年二月敷地二三、五一八坪に建物一、七六六坪をもつて建設完成した。爾来スチロールの商標名をもつて飛躍的な発展をどけるに至つた。

我が国の合成樹脂の総生産量はここ三年間に画期的な発展を上げている。

スチロンについて

スチロール樹脂の生産が、本當に伸びてきたのは戦後であり、現在の世界生産量は四〇万屯以上と推定され、わが国に

においても漸く昭和三十二年から国産が開始された。

スタイロンの特長は廉価、成型加工の容易、透明、自由な着色、絶縁性、吸湿性のないこと、無臭、無毒、低温においてこれらの特長が失われないこと等をあげることができ、代表的な熱可塑性樹脂である。

スタイロンからは、台所用品、頑具、電気部品、一般機械部品等が製造される。

◎神奈川県勤労婦人会館

神奈川県勤労婦人会館は昭和二十九年、働く婦人及び勤労者の主婦の教養と憩のための施設として労働省の資金補助により設立されたもので、敷地面積五五〇坪、建坪二二九・三六坪（延）の鉄筋コンクリートの近代的な会館である。

一五〇名を収容できる講堂をはじめ講習室（会議室）、和室、娯楽室、調理室、食堂、浴室、その他談話室、図書室などがあり各種の講演会や料理、手芸、生花等の講習会、教養講座、座談会等が随時開催され、勤労婦人の心の寄りどころとなつているとともに働く婦人や勤労者の主婦たちのいろいろの会合や宿泊をかねての行事等に使用されている。

◎三菱日本重工業横浜造船所

軽井沢住宅

三菱日本重工業株式会社横浜造船所の社宅は横浜市内数カ所に点在しているが、西区北軽井沢にある寮社宅は横浜市宅として昭和十九年頃に建造されたものである。

軽井沢寮は木造二階建七棟で一世帯十五畳又は七・五畳のわりで約一三八世帯が居住している。

又軽井沢社宅は一戸六・三畳に台所付の二戸建家屋で約七十世帯が居住している。

家族構成は平均約五人で世帯主の平均年齢は三十五、六才である。

婦人の組織は社宅の主婦を中心に主婦会（三十四年頃成立）寮の主婦を中心に婦人会（二十六年頃成立）が組織され、会長各一名ずつ、副会長各二名ずつが選出されている。

活動の主なるものとしては子供を中心とする映画会、キャンプ等、および定期的に実施する防火訓練、健康診断、清掃等がある。

本年度神奈川婦人少年室に於て労働者家族生活技術指導モデル地区に選定し、二月より継続的に指導援助を開始しているところである。

◎川口内燃機鑄造株式会社

1. 川口鑄物工業の沿革と現状

川口鑄物の起源は種々説があるが、最も確実な説として史実家によつて伝えられているのは「西暦九四〇年頃平将門が関東に於て乱を起し、下野の豪族藤原秀郷が平貞盛と共にこれを討伐した際に秀郷の軍に従つた鑄物師が平定後も引続きこの地に留まつたものである」と云われている。

徳川時代には民衆に鑄造を業とする者が増加したが、その製品は鍋釜、風呂釜等の日用品に過ぎなかつた。幕末の頃、当時の通貨・砲身・弾丸の鑄造を命ぜられてから漸次鑄物工業としての形態を整えて来た。

明治に入つてからは鑄造技術が非常に進歩し、明治二十年頃、水道用大口径鑄鉄管の受託、日清・日露兩戰役に際しての大小砲丸鑄造の成功等によつて、川口鑄物に対する需要は増大した。昭和十九年には月産二万トン。

川口鑄物は、日用品鑄物から発達してきたが、戦争を転機

として機械物の生産が増加し、最近は全生産量の約九〇%が機械鑄物である。大部分が京浜地帯の機械メーカーの下請生産である。

全国の鑄物主要産地である愛知、大阪、東京、兵庫と比較すると、業者数に於て才一位、労働者数において才二位であり、生産額は才三位をしめ、全国随一の集団化された形態をとつてゐる。

2. 川口内燃機鑄造株式会社

設立年月日 昭和十三年八月七日

資本金 七、五〇〇万円

従業員数 二二〇名

営業品目 陸船用各種内燃機関、自動車部品、圧力機械、

耐酸、耐蝕、強靱鑄鉄、一般鑄鉄、鑄造並びに

加工販売

月産能力 五〇〇トン

最大重量 八、〇〇〇Kgまで

その他 ○社宅 五〇世帯、公団住宅四階建一六世帯

○経営合理化により中小企業庁長官賞、埼玉県知事賞をうけている。(昭和二十七年)

○中小企業合理化モデル工場に指定されている。(昭和三十一年、三十三年)

◎美園村大門下生活改善クラブ

1. 地区の状況

美園村は旧野田村、旧大門村、旧戸塚村の三村が合併して昭和三十一年四月に誕生し、大門地区は細長く連なる村の中央に位する。

農家戸数一、二二二戸。その中専業農家八三〇戸、才一種兼業二二四戸、才二種兼業一五八戸である。形態別には水田主体のもの七三〇戸、蔬菜主体のもの一二五戸、花卉主体のもの六〇戸、苗木植木主体のもの二九七戸。

耕地面積一一五二ヘクタールの中、水田面積六一九ヘクタール、普通畑面積五一二ヘクタール、樹園地面積二一ヘクタールで平均耕作面積九・五アールである。

米、麦、くわい、蓮、甘藷、大和芋を始め蔬菜栽培が多く、軟化栽培としての茗荷、みつば、しょうが、芽芋、防風、木の芽、うど、最近の苗木は特産物として知られている。

2. クラブの発足

生活改善事業の話しをきき、希望者が集まりを持つようになったのは昭和二十九年九月で、多忙な農村の生活をうるおいのあるものにするため月一回、農繁期を除いて年八回は会合をもっている。大門下部落戸数三十三戸の中、十九戸の農家の主婦で組織している。

3. 活動状況

定例日は市場の休日の毎月四日で、年間計画に基いて当番制で行っている。役員は交替制で、会員に平等の機会が与えられる様運営されている。主として食生活の改善に力を入れ、他団体とも横の連絡をとりつゝ地道に活動している。

○食生活の改善 栄養知識と調理技術を学ぶための料理教室の開催、クラブ員相互の技術交換会、日常食の改善及び農繁期の改善、食べ物採点表とそれによる反省と計画。共同購入及び共同加工等々

○衣生活の改善 日常衣類の改善と利用更生、衣類、夜具の保健(改良わら布団等)、作業にあつた作業衣の改善等々

○住生活の改善 先進地区の視察見学、採光、換気設備の改善、働き易い台所と備品の購入、太陽熱利用タンクの設置等々

○保健衛生 保健所に依頼して乳幼児の健康、家族計画、妊産婦の衛生、生活環境衛生等の指導をうける。仕事の能率と休息のための午睡の実施等

○家庭管理 家計簿の記帳。家事の分担制。

○ その他Ⅱクラブ活動に対する理解を深めるため年一回とし
よりを招いた会を行つて来た結果、三十三年より月一回のと
しよりの会も生れた。

三十三年村の農業委員会より生活改善推進クラブとして受
賞した。

◎ 盆 裁 村

盆栽村は、日本が世界に誇る古来の芸術品である盆栽の育成地
で、大宮市にある。大正十四年、自然の縮図を一鉢に表現する技
術を代々受けついた人々によつて、大宮公園の一角に初めて広い
土地を開墾してから二十有余年を経ているが、今は日本で唯一の
盆栽郷となり、四季の花が絶えずその美を競つている。

◎ 片倉ハドソン靴下株式会社大宮工場

創 立 昭和二十九年五月二十八日

資 本 金 三 億 円

営業品目 ナイロン婦人靴下

従業員数 女子 六九〇名（内四九〇名が寄宿舎にいる）

男子 一八七名

片倉ハドソン靴下株式会社は、片倉工業とアメリカのフルファ

ツションメーカーであるハドソン靴下株式会社との共同出資で
設立された。（出資比率片倉工業六八・五％、米国ハドソン三
一・五％）西独にもアメリカハドソンの出資によるドイツハド
ソン靴下株式会社が、片倉ハドソンと姉妹会社になつてい
る。

普通「ナイロン靴下」と呼ばれているものには編み方によつ
て、フルファツション（一本の糸で編上げるが太い所細い所に
より編目を増減し、脚に合うように編上げたもの）、トリコツ
ト（平に編んだトリコット生地を裁断してミシンで縫合したもの）、
E式（丸編）靴下（縫目なしに円筒形に編上げ、足型に
入れ仕上げたもの）の三種類があるが、大宮工場では、若い女
子従業員によつて、大規模に一貫作業で年間五十万ダースの生
産が行なわれている。

◎東京電力株式会社千葉火力発電所

東京電力株^(株)は東京都をはじめ京浜工業地帯を中心として電力を供給しているが、産業の発達ならびに一般家庭の電化促進の傾向に伴ない、電力の需要はますます増加する傾向にある。一方、千葉県内には在来電源設備は皆無に等しかったが、近年京葉工業地帯総合開発の一環として工場誘致と港湾の建設が実施され、発電設備にも強い要望があつた。そこで千葉県営工事をもつて、千葉市川崎製鉄^(株)南方海面総面積約一一六、二〇〇坪を航路、水路、泊地の浚土で埋立て、ここに東洋才一の千葉火力発電所が建設された。

この発生電力は一五四KVの架空電線で東千葉変電所に送られ、一部は六〇KVに下げて千葉県内一帯へ、他は京葉送電線により東京都心に送られる。又別に二七五KVの超高圧架空送電線によつて東京方面に送電している。

使用石炭は海送される北海道及九州炭と陸送による常磐炭が使われ、年間一、六五〇、〇〇〇tが消費されている。海送の

為に石炭埠頭として最高一万屯級の石炭船の繫船岸壁が築かれ、陸送炭の為に国鉄蘇我駅から構内まで約三kmの専用線が敷設されている。

◎登戸生活協同組合

戦後の物資の不足、物価のひどい上昇の中で主婦の会や安定会を作つて物価の引下げに努力して来た主婦たちが三百余人の地域の主婦たちの参加を得て昭和二十四年四月この協同組合を設立した。当時は出資金一口百円、総額四万五千円、事業に馴れない主婦が、家事の時間を繰合せ、役員宅の玄関先や台所を使用し、御用ききから配達までしながら、組合の基礎をきづき、組合員を増し、資金を得、昭和二十四年九月十坪の店舗を新築した。その後の努力により着々と経営は伸び、昭和二十六年の供給高は三百六・七十万円、二十八年度は六百万円となり、三十三年度末には組合員数六一三人、出資口数一八〇〇、出資金九〇万円、供給高は千百万円となつたのである。この間、店舗

も手ぜまとなり、文化活動をするための集会場の要望も強くなつて、昭和三十年春には現在の敷地を買入れ、三十一年十二月に待望の組合会館が新築落成したものである。会館は二階建五十五坪余、階下はセルフ・サービス式店舗、階上は集会場として、特別セールなどの備に各種の文化活動に利用されている。

消費生活協同組合は、供給の事業の他にも組合員の生活改善や文化の向上をはかるための事業も行うのであるが、登戸生協も華道茶道の教室、洗濯、洋服、ふとん綿入れ、手芸、料理等の講習会、子供会、講演会、テーマ別の座談会の他バスによる見学旅行なども行われている。

家庭の主婦の社会的活動が、文化教養活動に留まらず、登戸生協では組合長、事務理事以下の各役員組合員に至るまで家事のかたわら主婦の手で事業を経営していく活動である点に注目したい。

◎農林省農業技術研究所家畜部畜産化学部

政府は明治三十三年から各地に種牛牧場等を設けて畜産の改良発達につくしてきたが、大正五年四月千葉県千葉郡都村（現在の千葉市青葉町）に畜産試験場を設立し、畜産に関する試験研究を行なうこととなった。爾来、若干の推移の後、昭和二十五年四月二十八日農林省設置法の一部改正によつて、農業関係

試験研究機関の整備統合が行われ、本場は、農業技術研究所家畜部、畜産化学部として畜産部門の研究を担当することになった。

家畜部は、我國の農業に数多くの優良家畜を導入することにより農家経済の改善を図ることを目的として、家畜の繁殖、生理、遺伝等に関する研究を行い、畜産化学部では家畜家禽の飼養並びに畜産物の加工及び利用、飼料作物に関する研究等が行われている。又依頼に応じて、飼料や畜産物の分析や鑑定も行っている。

